



エコシステムアカデミー

2014 年を振り返って、「エコシステムアカデミー」の取り組みについてご紹介いたします。本年は東京地区での環境教育、本格的な植生調査等、新たな取り組みを行うことができました。今後は、エコア力の活動を定着させ、更なる企業価値向上につながる活動にしていきたいと思っています。

I 体験型学習

1. 環境教育

○昭和女子大学学生（産学連携プログラム）との社有林での野鳥観察（4月）

積層プレスボードの端材の有効活用をテーマとした環境デザイン学科の授業の一環で、白河事業所に来場された学生7名と先生1名を対象に、エコア力の紹介と社有林での自然観察（日本野鳥の会 白河支部にご協力をいただいた野鳥観察）を行いました。今回の学生にとって、森や野鳥の観察は初めてであり、貴重な体験となったようです。



○両国小学校（東京）での環境教育（6月）

三菱製紙本社近隣小学校での環境教育として、5年生81名（3クラス）を対象に、1日目座学（「森のめぐみと自然の循環」）、2日目紙抄き体験を行いました。主要機材を白河より持ち込み、東京では初めてとなる小学校への訪問環境教育でした。座学では子ども達から専門的な発言が出され、紙抄きにも全員が非常に興味深く取り組んでいました。



○世田谷ものづくり学校 KIDS WORKSHOP（東京）での環境教育（8 月）

夏休み期間中の子ども達向けイベントのプログラムの一つとして、「森のめぐみと自然の循環」についてのミニ座学と「紙抄き体験」を行いました。不特定な来場者に対する取り組みは初めてでしたが、森の循環の大切さを理解してもらうとともに、夏休みの自由研究課題にもなる紙抄きを楽しんでももらえました。



○那須甲子青少年自然の家セカンドスクールでの環境教育（11 月）

>羽太小学校（西郷村）

5 年生 15 名（1 クラス）を対象に、「森のめぐみと自然の循環」についての座学と「紙抄き体験」を通じた環境教育を行いました。少人数ながらも、活発な子ども達にこちらも元気をもらいました。

>表郷小学校（白河市）

5 年生 71 名（3 クラス）を対象に、座学と紙抄き体験に加えて、「樹木計測体験」（本来は自然観察を予定していましたが、冷たい雨天のため変更）と「パーパーバッグ作り」を行いました。非常に盛りだくさんのプログラムでしたが、子ども達には「森のめぐみと自然の循環」の大切さについて理解が得られたと思っています。



○さいたま市立館岩少年自然の家（福島県南会津町）との取り組み（10月）

「紙抄き体験をイベントプログラムに加えたい。一度説明をお願いしたい。」とのさいたま市立館岩少年自然の家からの依頼を受けて、先方スタッフ（8名）に対して、エコアカ環境教育（座学、自然観察、紙抄き）を、実習を交えて紹介しました。現在、エコアカ監修という形で、先方スタッフによるプログラムとして立ち上げる方向で進めています。



○企業様へのエコアカ紹介（6月、8月、9月）

営業的なお付き合いのある印刷会社様、紙卸商様、機材メーカー様にエコアカの目指すところおよび活動内容を、実際に自然観察や紙抄きを体験してもらうことを交えながらご紹介させていただきました。子ども達への体験型環境教育としての製紙メーカーとしての特徴を活かした活動である点に、高い評価をいただきました。



2. 植樹会

○村火社有林内生長の森での植樹会（5月）

第二回の植樹会を、「親子による植樹」をテーマとして、西郷村佐藤村長ならびに日本野鳥の会 柳生会長をお招きして開催いたしました。天候にも恵まれ、三菱製紙従業員ならびにそのご家族、西郷村関係者、日本野鳥の会関係者、那須甲子青少年自然の家関係者ら約40名によって、約100本のミズナラの苗を植えることができました。元気に根付いています。第一回植樹会の樹木が隣接する区画で成長しており、比較することで自然の生命力を実感することができます。わが子のような愛おしさを感じるほどです。

植樹の後には、柳生会長の大変親しみのある講演を、森のこと、鳥のこと、被災地での活動のこと、子ども時代のこと等たくさんのエピソードを交えながら、大人も子どもも時間を忘れて聴くことができました。



○緑の少年団国際交流事業での植樹会（8月）

那須甲子青少年自然の家からの依頼を受けて、日本とロシアの子ども達の交流イベントにて、植樹の指導を行いました。通訳を介しての説明等戸惑う部分もありましたが、盛夏での植樹にもかかわらず、しっかりと根付いています。



Ⅱ 森の調査・研究

1. 社有林の定点カメラ観察

2011 年より継続して村火社有林の生長の森の一角を定点観察しています。天候や四季による移り変わり、年を経ることによる変化、生き生きとした自然の力を記録し続けています。

【2014 年】



【2011 年】



2. 社有林内の調査地の植生調査

調査地を定めて、その植生を継続的に調査・記録しています。調査地による実生の木の成長の違い、生き残ることの難しさ等、植生に対する自然環境の影響を実感することができます。



3. 野鳥の森の会による社有林の植生調査（5 月、10 月）

野鳥と森との関係を調査することを目的として、筑波大学名誉教授 中村先生を中心に、筑波大学学生 山崎さん、日本野鳥の会 佐藤理事長、棚部さん（白河支部）による植生調査が行われました。社有林（村火、欠入）をくまなく回り、植生を詳しく調査いたしました。400 種を超える草木が同定され、自然の豊かさを学術的に確認することができました。調査結果につきましては、現在、中村先生が分析中であり、エコアカ環境セミナー等で皆様へご紹介する予定です。



Ⅲ 森の育成・管理

1. 社有林のFSC監査（5月）

年次監査を無事クリアしました。今後は、更に高いレベルでの管理を目指すために、社有林での作業の安全確保、関係する社会情勢ならびに絶滅危惧植物に関する情報収集、計画的な森林利用について取り組んでいきます。



2. 社有林の巡視・整備（通年）

社有林内を巡視し、自然観察のフィールドとして子どもたちが安全に活動できるように、下草刈りや枯れ木・枯れ枝・倒木の処理、社有林内村道の清掃等を行っています。



手前側は下草刈りを実施したエリアです。未実施の奥側と比べ観察活動がしやすくなっています。



倒木をチェーンソーで処理し、安全に調査・観察活動ができるようにしています。



冬期もスノーシューを履き、巡視や調査（定点カメラデータ回収、放射線量調査等）を行っています。

Ⅳ 環境セミナー

・「森のめぐみ」をテーマに、平成27年3月開催で計画中です。

【発行人】エコシステムアカデミー室長 長田雅一

【発行年月日】2015年1月15日